

- 2面 宮島(厳島)体験乗船
3面 四日市港社会見学体験乗船
4面 東海北陸旅客船協会との
政官学労使懇談会〈名古屋〉

— 内航貨物船と外国籍船ケミカルタンカーとの海難事故 —

運輸安全委員会に対し、 迅速な事故原因の究明と事実情報の開示を強く要請



左から遠藤節総合政策部長、立川博行中央執行委員、平岡英彦中央執行委員、渋谷武容運輸安全委員会事務局総務課長

2021年5月、来島海峡航路西口付近にて内航貨物船と外国籍船ケミカルタンカーの海難事故が発生した。本件は、裁判において最終的な事故原因や因果関係が明らかにされていない中で、内航貨物船の航海士のみによる有罪判決が下されるなど、公正を欠いた司法判断となった。これに対し本組合は、2024年9月17日に記者会見を開催し、海難事故における運輸安全委員会による迅速な事故原因の究明と事実情報の開示、そして刑事責任については、十分な事実関係に基づく公正な司法判断がなされなければならないとする声明を発表した。

10月28日に至り、運輸安全委員会に対し「海難事故に対する迅速な事故原因の究明と開示について」申し入れを行った。その中で、海難事故における運輸安全委員会による最終的な事故原因の究明は極めて重要であるにも関わらず、未だ最終的な調査報告が出されていないこと、また運輸安全委員会は、2008年に改編された海難審判庁の機能を維持していると判断しているが、今回の海難事故については、既に3年以上が経過している中、最終的な報告はもとより、現時点で判明している中間的な情報の提供もなされていない。このことは、「事実情報のタイムリーかつ積極的な提供・情報発信」とする運輸安全委員会の行動指針に反していると指摘し、早急な報告書の全面開示を強く求めた。

海難事故における運輸安全委員会の報告は重要な判断基準

2024年10月28日、平岡英彦国内局長、立川博行政策局長、遠藤節総合政策部長が運輸安全委員会に対し、「海難事故に対する迅速な事故原因の究明と開示について」の申し入れを行った。

冒頭組合より、今回の海難事故において内航貨物船の日本人航海士のみが起訴され、裁判において松山地方裁判所にて有罪判決が下され、高松高等裁判所に控訴したが棄却、最高裁判所に上告したものの、棄却された。その一方で、事故発生当時の来島マ

ーチスによる航路管制はどのような状況だったのか、さらに衝突後、外国籍船が後進したことで内航貨物船の乗組員の避難が困難となり沈没までの時間を早め、死傷者の発生を招いた一因となった可能性や、裁判において外国籍船ケミカルタンカーの船長に操船上の落ち度があったとしながらも不起訴となった。このことは、運輸安全委員会の事故原因の究明や調査報告がない中で刑事裁判だけが先行し、

令和6年10月28日
海員本発 24-046号

運輸安全委員会
委員長 武田 展雄 殿

全日本海員組合
組合長 松一博 満 晴

海難事故に対する迅速な事故原因の究明と開示について

貴職におかれましては、海運・水産業で働く船員で構成する全日本海員組合の諸活動に対し、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

わが国においては2008年(平成20年)まで、海難審判庁において海難事故の原因を究明し再発を図るため海難審判法に基づき海難審判を行っていましたが、法改正により同庁は廃止され、懲戒処分業務を「海難審判所」、事故原因究明業務を「運輸安全委員会」にそれぞれ業務移管しました。

2021年5月、愛媛県今治市の来島海峡航路西口付近で内航貨物船と外国籍船ケミカルタンカーが衝突、内航貨物船が沈没しわが国の船員3人が犠牲となる重大な海難事故が発生し、警察・検察等による捜査により、内航貨物船の航海士は起訴されましたが、操船上の落ち度があったとされる外国籍ケミカルタンカーの外国人船長は不起訴となりました。

本件のような重大な海難事故に於いては、海難事故・重大インシデントに対する調査・勧告を行う行政機関である「運輸安全委員会」による公平・公正な立場での科学的かつ客観的な調査・分析による事故原因や因果関係などに関する報告や情報開示は極めて重要なものです。

しかしながら、貴委員会が旨とする「事実情報のタイムリーかつ積極的な提供・情報発信」が行われたとは言えません。「迅速な報告書の作成・開示」は未だに行われておりません。

その様な中で、内航貨物船の航海士への刑事責任が司法によって審理され禁固刑が科せられたことには大いに疑義を覚えるところです。

今後、海難事故が発生した際には、船員が安心して海上輸送に従事できるよう、貴委員会による一刻も早い科学的かつ客観的な調査・分析による海難事故に関する迅速な事故原因の究明並びに、判明している事実情報のタイムリーかつ積極的な提供・開示を強く要請いたします。

以上

日本人航海士のみに見張り不十分として禁錮刑が下された司法判断に強い憤りを感じていることを主張した。

運輸安全委員会は、旧海難審判庁が2008年の組織改編により、公正・中立な立場から科学的かつ客観的な事故原因の究明を行うことを目的に業務分割された機関であり「事実情報の提供などの情報発信をタイムリーかつ積極的に行うとともに、事故調査の透明性確保の観点から情報の開示に努める」ことを行動指針として掲げている。

しかしながら、2021年5月の事件発生時から3年以

早急な事故原因の報告を要請



本来、海難事故については海難事故・重大インシデントに対する調査・勧告を行う行政機関である運輸安全委員会から、これまで運輸安全委員会から示されたのは1年後に事件概要が記述されている経過報告だけであり、最終的な具体的な調査結果の報告書が未だ開示されていない。行動指針の趣旨からすれば、最終的な報告に時間を要するのであれば、途中経過、すなわち中間報告があつて然るべきであると強く主張し、海難事故における運輸安全委員会としての役割と迅速な対応を強く求めた。

かたにされる前に、刑事裁判が先行するなど極めて公正を欠くものであり、このことは現在の使命感を持ち職務に従事する船員に対して大きな不安を与えざるばかりか、これから船員を志す若者に対しても影響を及ぼすことが懸念される。

今後、船員が安心して海上輸送に従事できるよう、運輸安全委員会による一刻も早い科学的かつ客観的な調査・分析による海難事故に関する迅速な事故原因の究明と判明している事実情報のタイムリーかつ積極的な提供・開示を求めるとともに、今回の海難事故に対する事故原因の究明と早急な報告書の全面開示を強く主張した。

令和6年度 宮島(厳島)体験乗船

大島商船高等専門学校の練習船「大島丸」で船員の仕事を学ぶ



機関室見学



操舵室見学

10月11日、過ぎしやすい秋晴れのなか、広島県廿日市市において、本組合主催の「宮島(厳島)体験乗船」を開催し、広島県廿日市市立佐方小学校の5年生95人と廿日市市子ども相談室の小学5年生3人が参加した。この体験乗船は、港町における船と港と船員の重要性を子どもたちに理解してもらうことを目的に企画し、廿日市市教育委員会ならびに中国海事広報協会の後援のもと、大島商船高等専門学校と中国運輸局の協力を得て、大島商船高等専門学校の練習船「大島丸」を利用して開催した。

子どもたちは、午前9時に宮島口旅客ターミナル前に集合し、全員で宮島松大汽船株式会社社長のフェリーで宮島に渡った。

開会式は宮島のフェリーターミナル前で行われ、平岡英彦中央執行委員から主催者代表あいさつが述べられた後、本組合政治参与の中原好治広島県議会議員と三上えり参議院議員、渡邊保克中国運輸局海事振興部調整官から来賓のあいさつが述べられた。

「大島丸」乗船

代表児童の新見慧士くんからあいさつが述べられた後、子どもたちは3班に分かれ練習船「大島丸」に乗船した。「大島丸」が出港すると操舵室、機関室、居住区を見学。乗組員から説明を受けた子どもたちは、初めて見るレーダーや電子海図、大きなエンジンなどに興味を示し、操舵室では、双眼鏡を覗き、自分たちの学校や自宅を探していた。

中原好治広島県議会議員
(組合政治参与)

平岡英彦中央執行委員

渡邊保克中国運輸局海事
振興部調整官

三上えり参議院議員

船内見学が終わると風景を見たり、デッキに寝転がったり、それぞれが航海中の「大島丸」を楽しんだ。

「大島丸」が宮島桟橋に着くと子どもたちが整列し、中村泰裕船長へお礼を述べ「大島丸」からは児童全員に記念品がプレゼントされた。

宮島水族館見学

「大島丸」を下船した後、次の目的地である宮島水族館(みやじマリナ)へ向かった。片道約30分をかけた無事に宮島水族館(みやじマリナ)へ到着した子どもたちは、ライブプールで持参したお弁当を食べた後、水族館内の見学やアシカショーを楽しみ、オットセイショーでは、アザラシとアシカやオットセイとの違いなどについて学んだ。

最後に閉会式が行われ、代表児童の正岡祐杜くんと野田智沙都さんから「本日は、わたしたちのために、このような機会をもうけてくださり、ありがとうございました。今日一日、学校ではできない貴重な体験ばかりで、とても楽しみなが学ぶことができました。特に、操縦室やエンジンルームなどの普段見られないところまで間近で見学できたことが一番心に残っています。機関室や大島丸の船内についてくわしく知ることができて、本当に良かったです。この体験乗船を通して、海で働く方々の仕事の魅力も見て学ぶことができました。見学や体験を通して、学んだことを感じたことを大切に、これからの学習に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました」と感謝の言葉が述べられ、体験乗船は無事に終了した。



練習船・大島丸

楠小学校 1班



楠小学校 2班



水沢小学校



中央小学校



児童たちに
船員の
お仕事の魅力を
伝える

最後に、海事広報協会や太平洋フェリーから提供された記念品を手渡し、児童は笑顔で下船した。

「四日市港の船と港紹介」では、八馬汽船株式会社の神原将平職場委員が講師となり、船の種類や船が運んでいる

「ロープワーク体験」では、スタッフが「巻き結び」と「もやい結び」を教え、児童たちは上手に早く結べるよう真剣に取り組んでいた。最終的に児童全員が「もやい結び」をマスターし、早駒運輸株式会社の「マリンフロートチャーム」が景品として渡された。

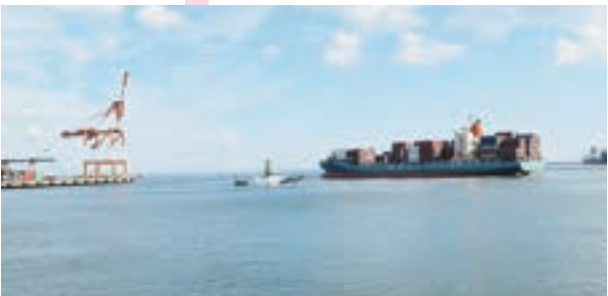
「海外に船で行く場合、何時間かかるのか」「タンカー船で海に油が漏れたらどうするのか」などの質問が出され、現役船員の講師が、わかりやすく説明すると共に、船員職業の魅力も伝えた。入港間際には、四日市ポートサービス



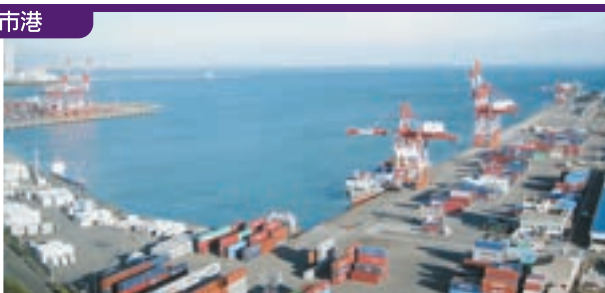
操舵室見学



四日市港の船と港紹介



四日市港



伊勢湾フェリー株式会社

伊勢丸で四日市港 社会見学体験乗船

伊勢丸



10月18日、三重県四日市港において、四日市内の小学3年生を対象に、四日市港社会見学体験乗船を開催した。この体験乗船は、船員職業を子どもたちに学んでもらうとともに、港町「四日市市」における船と港と船員の重要性について理解を深めることを目的として2013年から全日本海員組合が主催し、中部運輸局三重運輸支局、四日市市教育委員会、四日市港管理組合、中部海事広報協会の後援のもと、伊勢湾フェリー株式会社、四日市ポートサービス株式会社、太平洋フェリー株式会社の各社に協力いただき、毎年開催をしている。今年は、四日市市立楠小学校の児童66人、四日市市立水沢小学校の児童12人、四日市市立中央小学校の児童26人が体験乗船した。

はじめに「伊勢丸」の船内において乗船式が行われ、主催者を代表して平岡英彦中央執行委員からあいさつが行われた後、竹野兼主四日市市議会議員(組合政治参与)から来賓あいさつが述べられた。乗船式の後、スタッフの指示に従って、児童たちはそれぞれの班に分かれ、船内でさまざまなイベントを体験学習した。

「はじめに「伊勢丸」の船内において乗船式が行われ、主催者を代表して平岡英彦中央執行委員からあいさつが行われた後、竹野兼主四日市市議会議員(組合政治参与)から来賓あいさつが述べられた。乗船式の後、スタッフの指示に従って、児童たちはそれぞれの班に分かれ、船内でさまざまなイベントを体験学習した。

はじめに「伊勢丸」の船内

「操舵室見学」では、乗組員が制作した船体模型をもとに、フィンスタブライザーの船体説明が行われ、初めて見る海図やレーダーなどに興味を示し、教えてもらったことをノートに記入していた。

「ロープワーク体験」では、スタッフが「巻き結び」と「もやい結び」を教え、児童たちは上手に早く結べるよう真剣に取り組んでいた。最終的に児童全員が「もやい結び」をマスターし、早駒運輸株式会社の「マリンフロートチャーム」が景品として渡された。

「海外に船で行く場合、何時間かかるのか」「タンカー船で海に油が漏れたらどうするのか」などの質問が出され、現役船員の講師が、わかりやすく説明すると共に、船員職業の魅力も伝えた。入港間際には、四日市ポートサービス

「海外に船で行く場合、何時間かかるのか」「タンカー船で海に油が漏れたらどうするのか」などの質問が出され、現役船員の講師が、わかりやすく説明すると共に、船員職業の魅力も伝えた。入港間際には、四日市ポートサービス

「海外に船で行く場合、何時間かかるのか」「タンカー船で海に油が漏れたらどうするのか」などの質問が出され、現役船員の講師が、わかりやすく説明すると共に、船員職業の魅力も伝えた。入港間際には、四日市ポートサービス



第85回定期全国大会 10月30日から11月1日まで 海員福祉研修会館で開催

10月30日から11月1日までの3日間、ホテルマリナースコート東京(海員福祉研修会館)において、第85回定期全国大会が開催され、初日に第79年度活動報告と会計報告、第80年度活動方針案・第1号議案が審議された。二日目は各分科会議が開かれ(外航Ⅱ関東地方支部、水産Ⅱナビオス横浜、国内Ⅱホテルマリナースコート東京)、最終日は第5号議案を審議し、新たな活動方針が決定された。

大会詳細記事は、
**次号の
船員しんぶん**に
掲載予定



林芳久仁 組合政治参与が退任 — 船員政策の具現化に貢献 — ありがとうございました

全国発信記事

静岡支部
＝発信

平成15年から、静岡県を中心に活躍いただいた林芳久仁組合政治参与の退任に伴い、9月9日、静岡支部で高宮成昭関東地方支部長から、林芳久仁組合政治参与に感謝状が贈呈された。

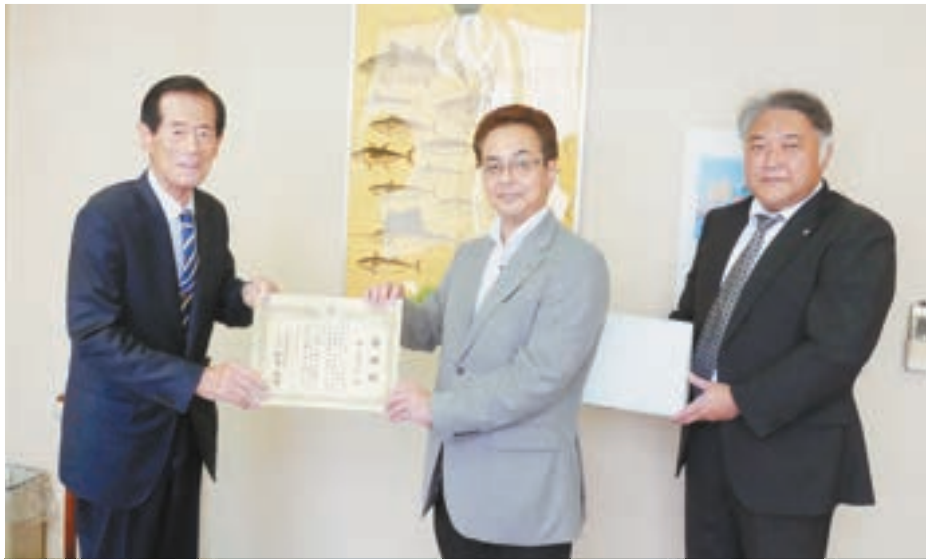
林芳久仁政治参与は平成15年から約20年にわたって静岡県議会議員として静岡県を中心とする海、船、船員に関する政策を推進していただき、本組合が行う静岡県および県内自治体に対する政策活動に多大な貢献をいただいていた。

最近の活動では、本年7月の静岡県への海上労働に関する政策要望時に、ご同行いただき、静岡県立焼津水産高等学校専攻科の定員増加を見据えた練習船の代替建造などについて、県の前向きな回答を

引き出した。

感謝状贈呈に際して高宮成昭関東地方支部長からは、これまで長年、本組合の政策活動に多大な貢献をいただいたことに感謝の意を示して感謝状と記念品を贈呈した。

林芳久仁組合政治参与からは「静岡県はわが国有数の水産県であり、まだまだやり尽くせていない課題が山積していますが、高齢により令和5年には議員職も引退し、船員に関する政策を推進する後輩県議の発掘・育成にも取り組んでいます。今後も本組合から求められれば協力を惜しまない所存ですが、後輩議員の活躍にも期待していきたい」との思いを語られた。これまでの長い間、本当にありがとうございました。



左から林芳久仁組合政治参与、高宮成昭関東地方支部長、森本雷行静岡支部長



— 第20回 — 東海北陸旅客船協会との 政官学労使懇談会

全国発信記事

名古屋
支部
＝発信

10月1日14時から、名古屋港ポートビル会議室で、東海北陸旅客船協会との政官学労使懇談会が開催され、東海北陸旅客船協会加盟船社9社18人、愛知県議会議員1人、中部運輸局1人、船員養成教育機関4校4人、本組合から平岡英彦国内局長をはじめ、関西地方支部管内執行部10人と職場委員2人の合計36人が出席した。

はじめに山原始名古屋支部長が「本年は能登半島地震や日向灘地震などの自然災害で各社が影響を受け、今後もより一層の災害対策、安全運航が求められる。本日は人材確保という課題について忌憚のない意見交換を行っていただきたい」とあいさつした。

次に東海北陸旅客船協会の宮脇幸次会長から「燃料高騰やモーターシフトによる物流転換期への対策、船員の確保・育成など厳しい現状であるが、重要課題である海技の伝承に向け、各社の特色を各学校に理解いただき、学生の就職に対する想いを受け止める意見交換を行いたい」とあいさつが述べられた。

続いて本組合を代表し平岡国内局長が「海運業界において船員の継続的な採用のため、労働環境や労働条件、賃金の見直しが必要不可欠であり、本日は定着率向上や船員の確保・育成について、さまざまな意見交換を行ってきたい」とあいさつした。

中部運輸局からは海事振興部の柴垣和典部長が「旅客船業界では知床旅客船事故を受け、小型旅客船安全対策事業補助事業の実施、来年度より運航管理者証制度の実施を予定しており、今後より一層の安全運航を確保できる体制に向け取り組みたい。また体験乗船の後援で船員の魅力を伝え、人材確保に向け課題の共有をしていきたい」とあいさつし議事に入った。

船員教育機関からは就職状況報告、生徒の重要視する就業環境や賃金に対する意見が出され、旅客船協会からは各社の運航形態や採用状況について、中部運輸局からは船員教育機関卒業生の求人・就職状況や内航船の雇用対策や女性船員の採用状況について報告がなされた。

報告の後、意見交換が行われ、主な意見・質問は▽各学校の定員に対する応募状況・入学者数について▽学生の求人に対して重要視するポイント▽学生の入学動機、進路希望について▽卒業生の就労情報や退職相談について▽各社のインターンシップ受け入れについて—などがあり、出席者の意見交換で今後の課題を共有し懇談会を終了した。



これからの人材確保について情報共有